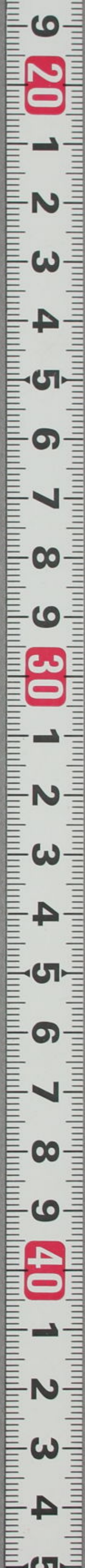


13
1760
2



1760
2

序

澡其字，倭其訓。而童蒙之
士可教，烏加之。以圖而童蒙之
士可益，喜而獎。烏便此書之取
以作也。王禽、圖、山海、經、豈
敢乎。唯為載酒問字之須耳。



去五味均平藏



名曰唐土訓蒙園景都若
千卷請序於余遂書而遺
諸享保戊戌仲春之望玉井
直道題



叙

夫古之於書也，在國之海之內，
於國之書也，在古之書也，
取於書也，法法也，書也，
未觀之國也，也，
海而對人，也，也，也，也，

其以象也所以為之者
藉之末也必無之也
以象也必無之也
今其在有造字之末
字亦必無之也
制以象也必無之也

多程也
程也
子而不出人
物之理也
十有五
名曰

而名之異訓之悟者皆不載于此亦自古有訓錯者若夫杜若訓加綫津波多黃鳥訓宇久比須之類不為少矣今皆正之以載之

一若其辭名和訓也求之近世先輩之所考問加己意以附之極知固陋不能無妄謬觀者改正其妄謬則幸甚

一此編有圖無釋者頗多矣豈難解之而不解之者也恐觀者厭其繁而棄之故畧其事舉其圖而不遺讀者無怪其闕畧而可矣

唐土訓蒙圖彙卷之一

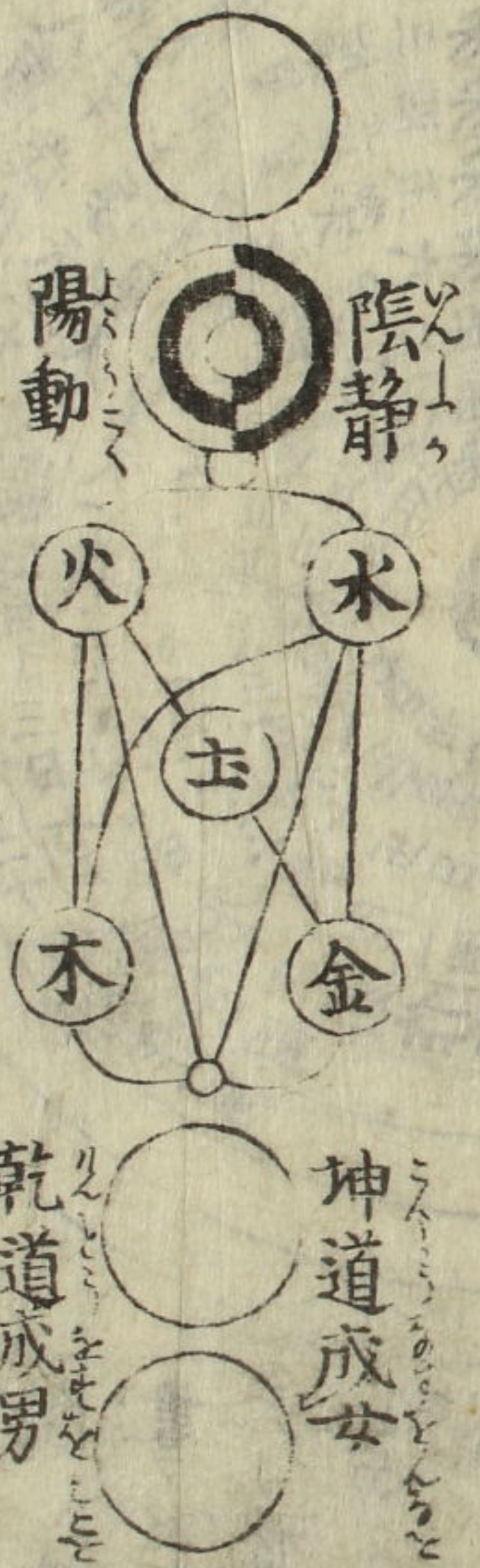
和名并和訓附

天文

易よ所謂仰觀天文とい日月星宿の事也文とい文章なりわび部より大極より日月星の運分の詳もて載てのよれとやと

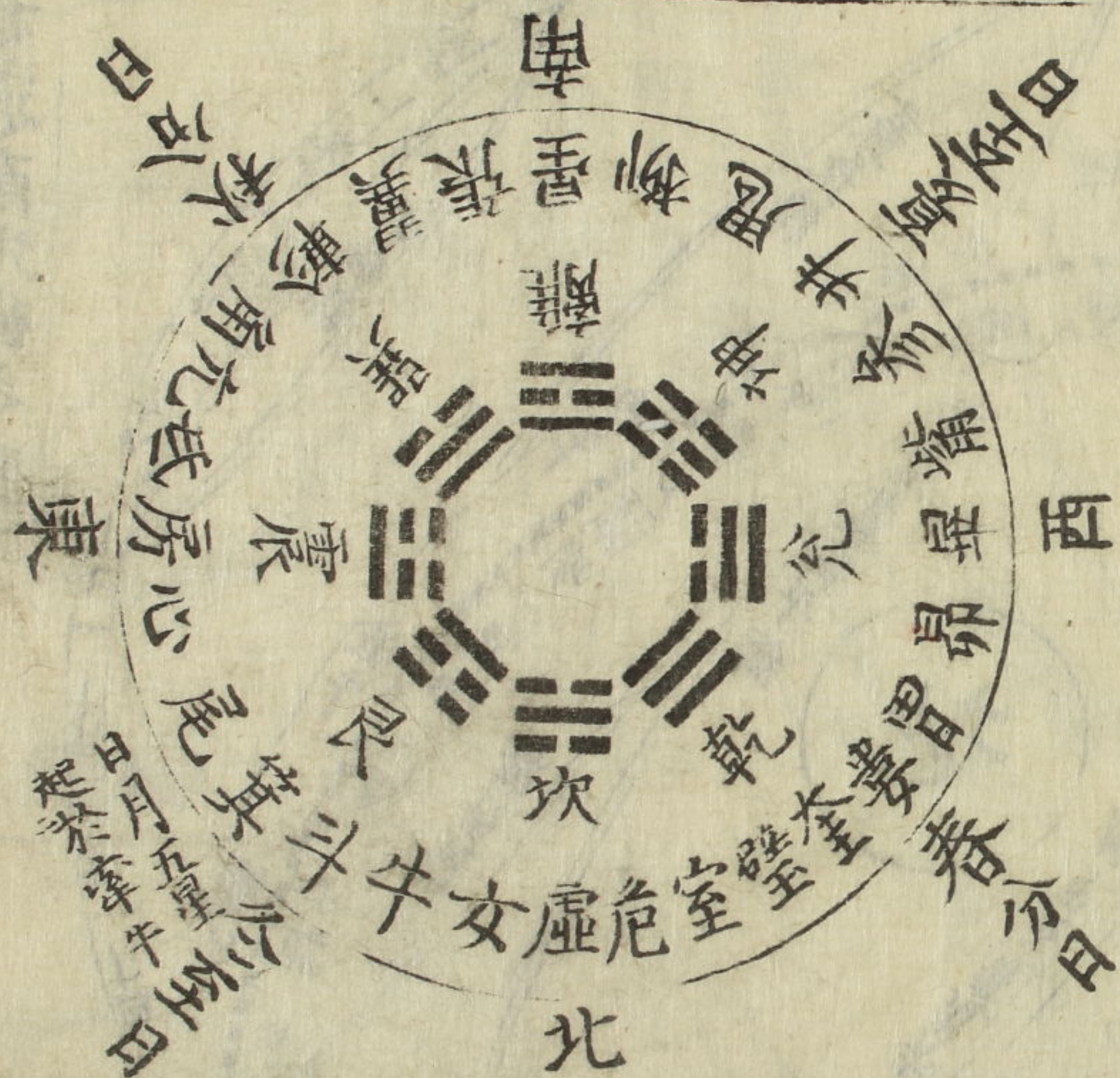
大極とい天地いまより二つありてその理といふ方一の図にその理を記しつれん陰陽とあると兩儀といふ二の象に陰陽多動静を合して

大極圖



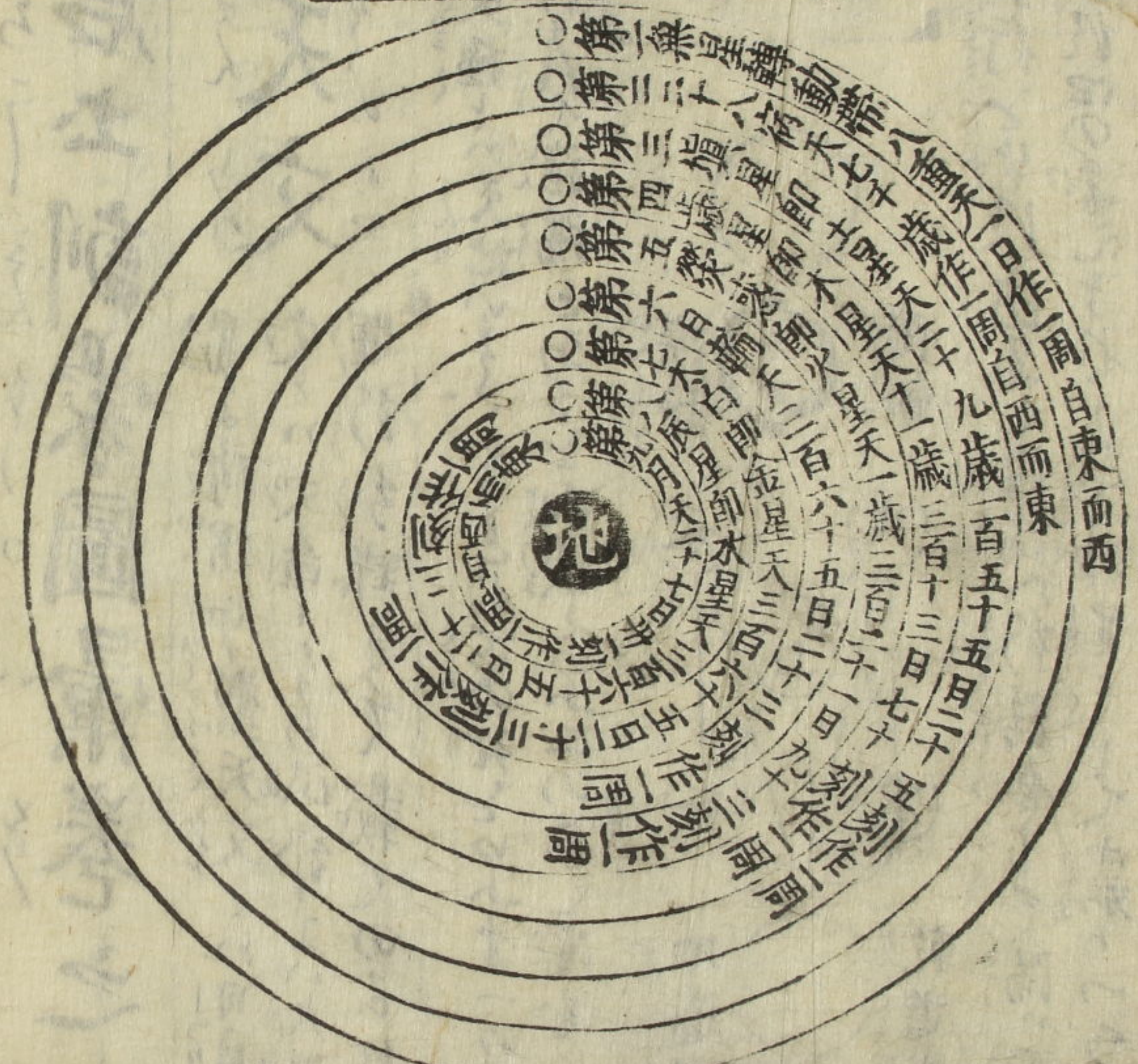
五行と生に二の象に陰陽多動静を合して陽の男と陰の女とありての象にそれあり万物化生といふなりつるなり

伏義仰觀天文之圖



古へ伏義の天下に
 形あり一時易と作
 且て万民の用あり
 かくんと欲は法を
 遠より依りて天地
 ありて之を能く
 先仰て経緯を
 象と大り観る
 日月星辰の
 盈虧消長を
 性事の故を察し
 かくとす

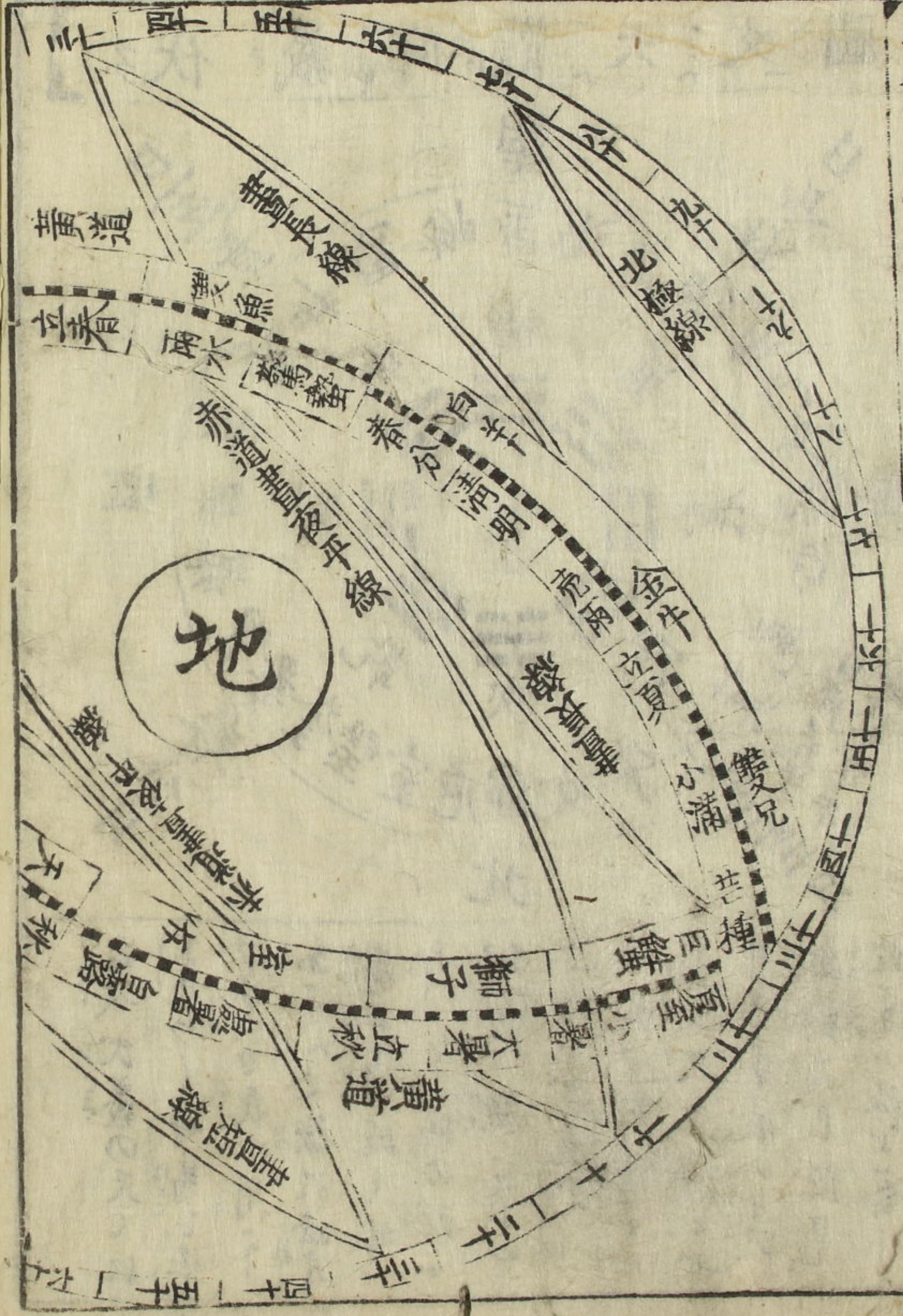
九重天の圖



天ハ九重九の段乃
 極なり天ハ動と宗
 として其の体ハ渾
 圓シ日ハ天子象
 晝夜とあり月を
 天子係て之を盈虚
 とあり五星ハ晨
 昏に伏見とあり
 列宿ハ二十八全
 ありて運旋を
 年と方にして
 ありて星も
 ありて其の
 異なり列宿也
 段のあり環の
 ありて

黄赤道南北極之圖

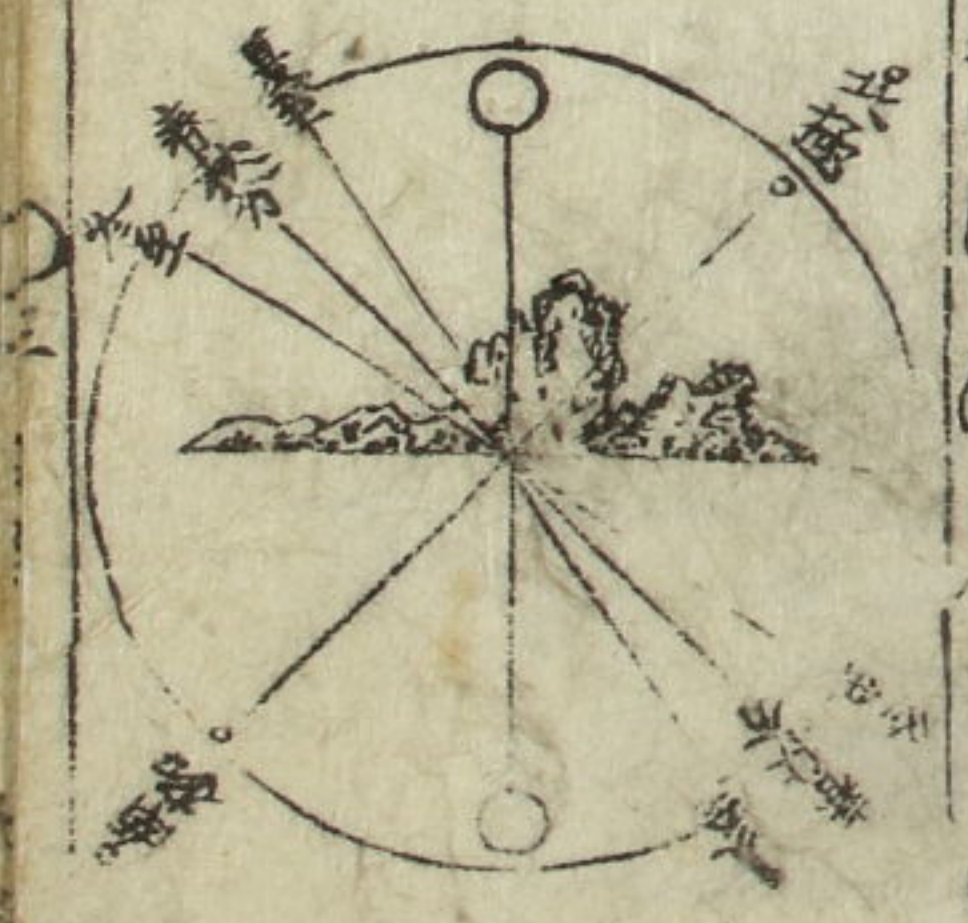
又天地儀とてハカク



南北極出地



二儀圖



右の圖子午
 南北極の南北
 赤道の終つて
 黄道の圓とて北とをさすものと又晝夜乃
 周圖は列宿有る諸國星に並み共に渾象の内よはく今ある星を

唐土訓蒙圖彙卷之二

和名并
和訓附

地理

此部は萬國中
華より北の
名流とある
のをもて
乃西に
一

伏羲の地理之圖



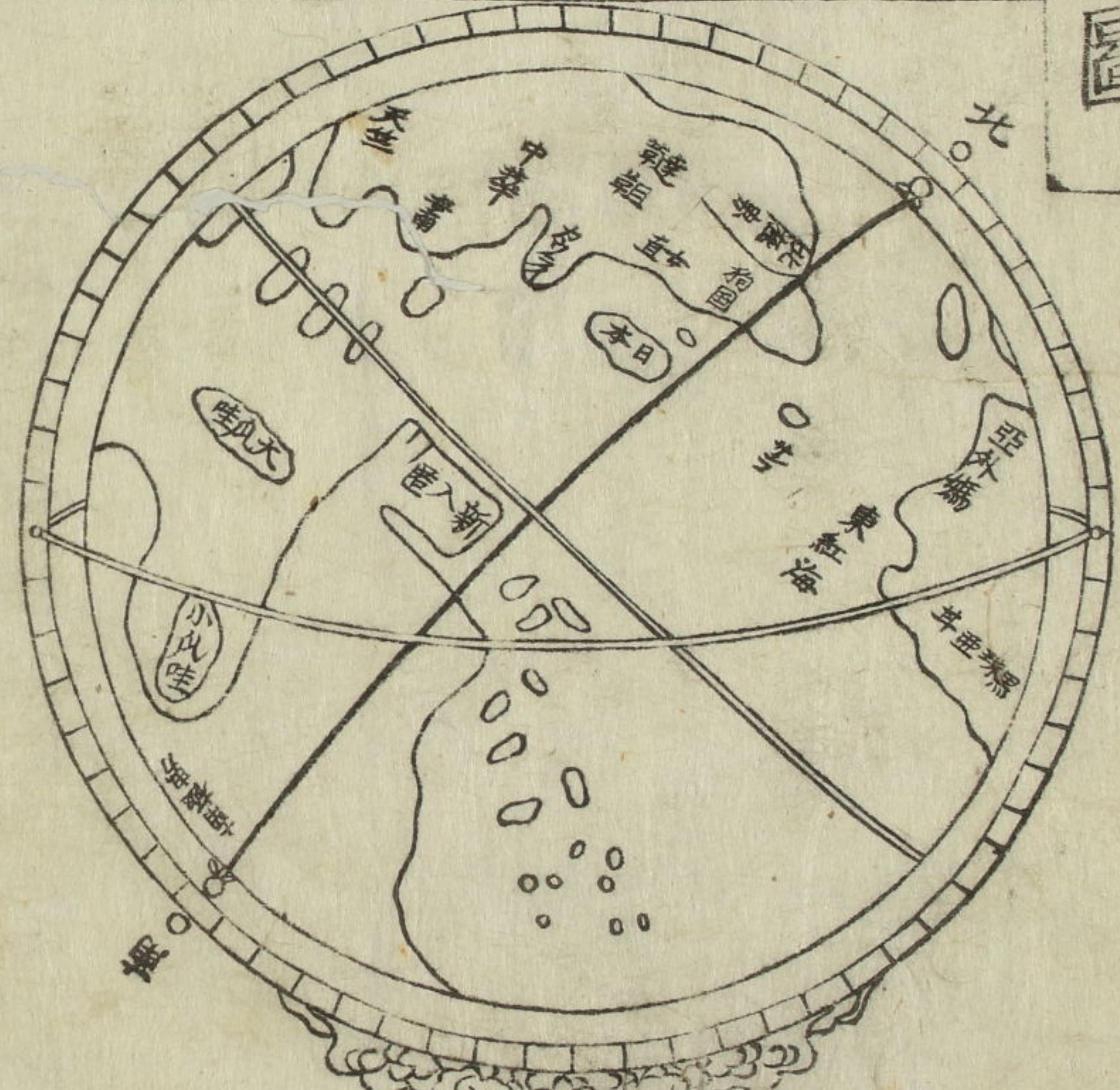
此圖伏羲の仰天
文と云ふと
包羲氏俯して
法を地
深く
低る
察て易と他

和名并

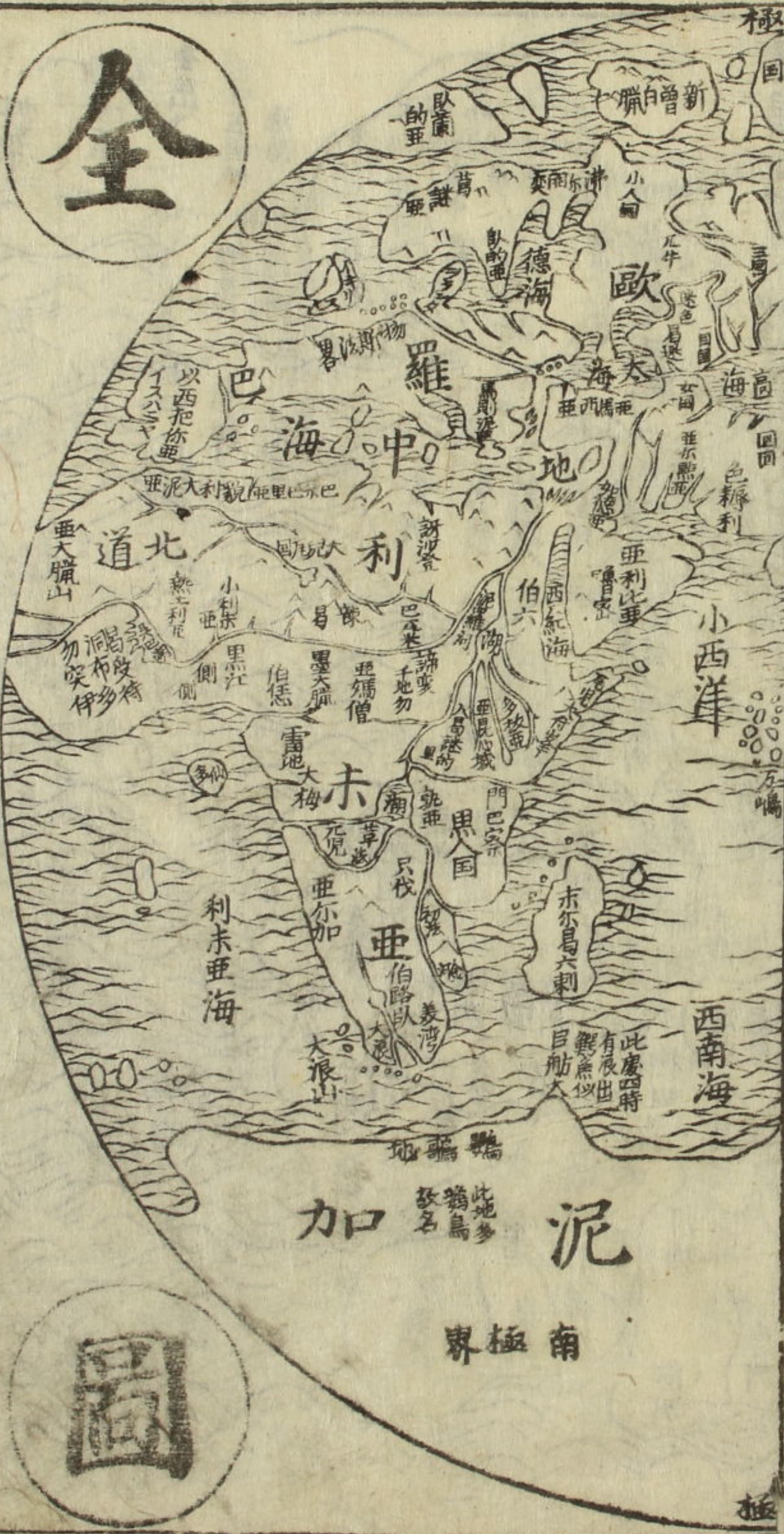
和訓附

地球圖

地球圖といふは、地球の形を、
 地圖として、
 示すものなり。
 地球の形は、
 圓球形にして、
 赤道より南北に、
 緯線を引くべし。
 赤道より北に、
 北緯線、南に、
 南緯線と云ふ。
 赤道の長さは、
 約四萬里なり。
 地球の中心を、
 地心と云ふ。
 地球の表面を、
 地面と云ふ。
 地球の周囲を、
 地球の周縁と云ふ。
 地球の内部を、
 地球の内面と云ふ。
 地球の外部を、
 地球の外縁と云ふ。
 地球の表面を、
 地球の表面と云ふ。
 地球の内部を、
 地球の内部と云ふ。
 地球の外部を、
 地球の外部と云ふ。
 地球の表面を、
 地球の表面と云ふ。
 地球の内部を、
 地球の内部と云ふ。
 地球の外部を、
 地球の外部と云ふ。



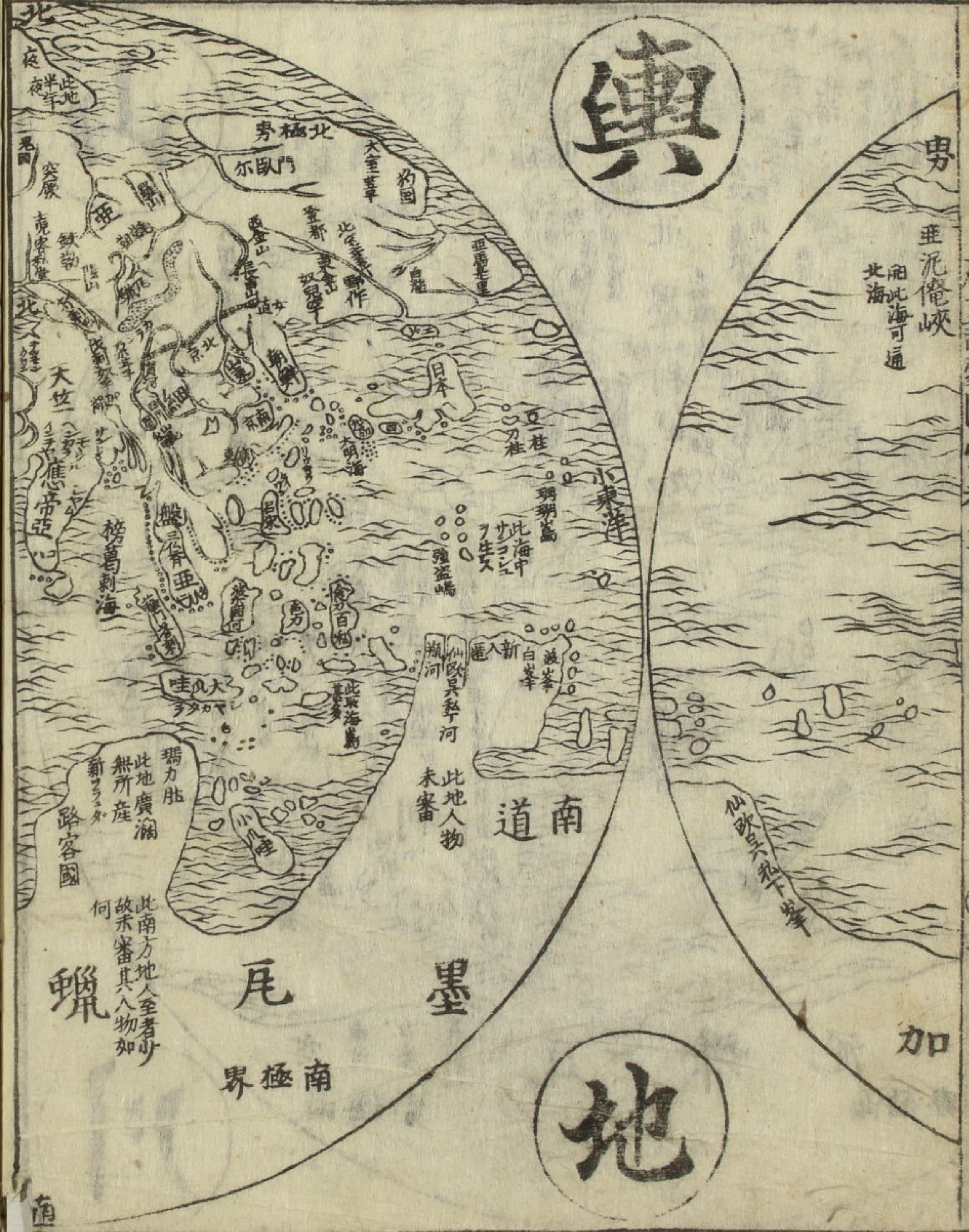
全



圖

此輿地全圖ハ平壯年の時或人の家藏とすうて
多とたり今幸にあつて寫しあり
球圖とす今ハ元本ノ形状とすうて
かく一凹一凹の隈一嶋一川の
只々むらむら内海にして國名
のこむ人さゆらさるる也とす

輿



地

男
垂泥俺峽
用此海可通
北海

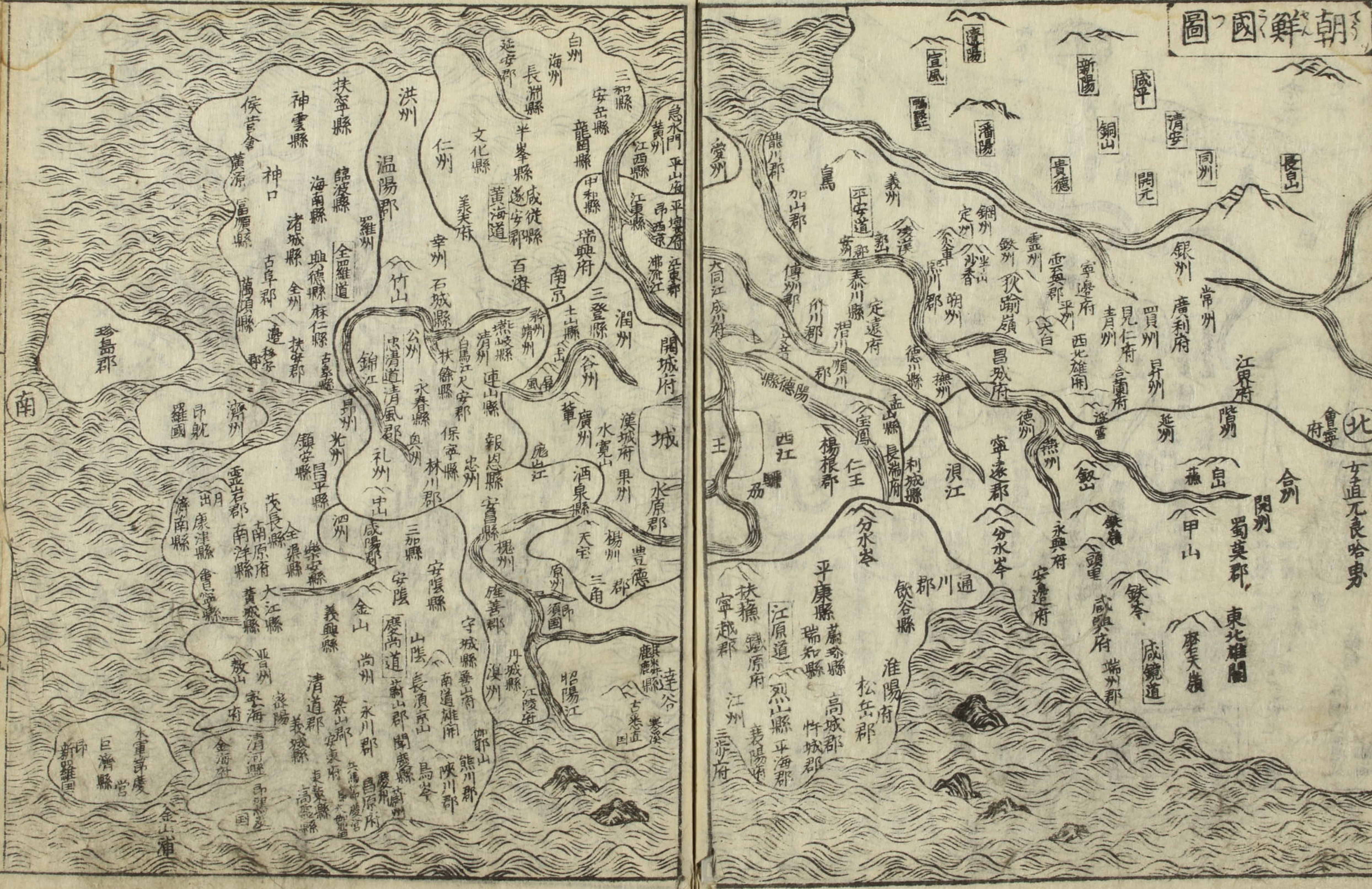
中華十五省
華夷一統圖

唐七訓蒙圖卷二



朝鮮國圖

唐王訓蒙圖原卷二



女直兀良哈男

會寧府

朔方府

延州府

蔚州府

薊州府

幽州府

檀州府

順州府

雲州府

蔚州府

代州府

忻州府

澤州府

潞州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

彰德府

魏州府

大名府

開州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

南

北

會寧府

朔方府

延州府

蔚州府

薊州府

幽州府

檀州府

順州府

雲州府

蔚州府

代州府

忻州府

澤州府

潞州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

彰德府

魏州府

大名府

開州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

邢州府

衛州府

懷州府

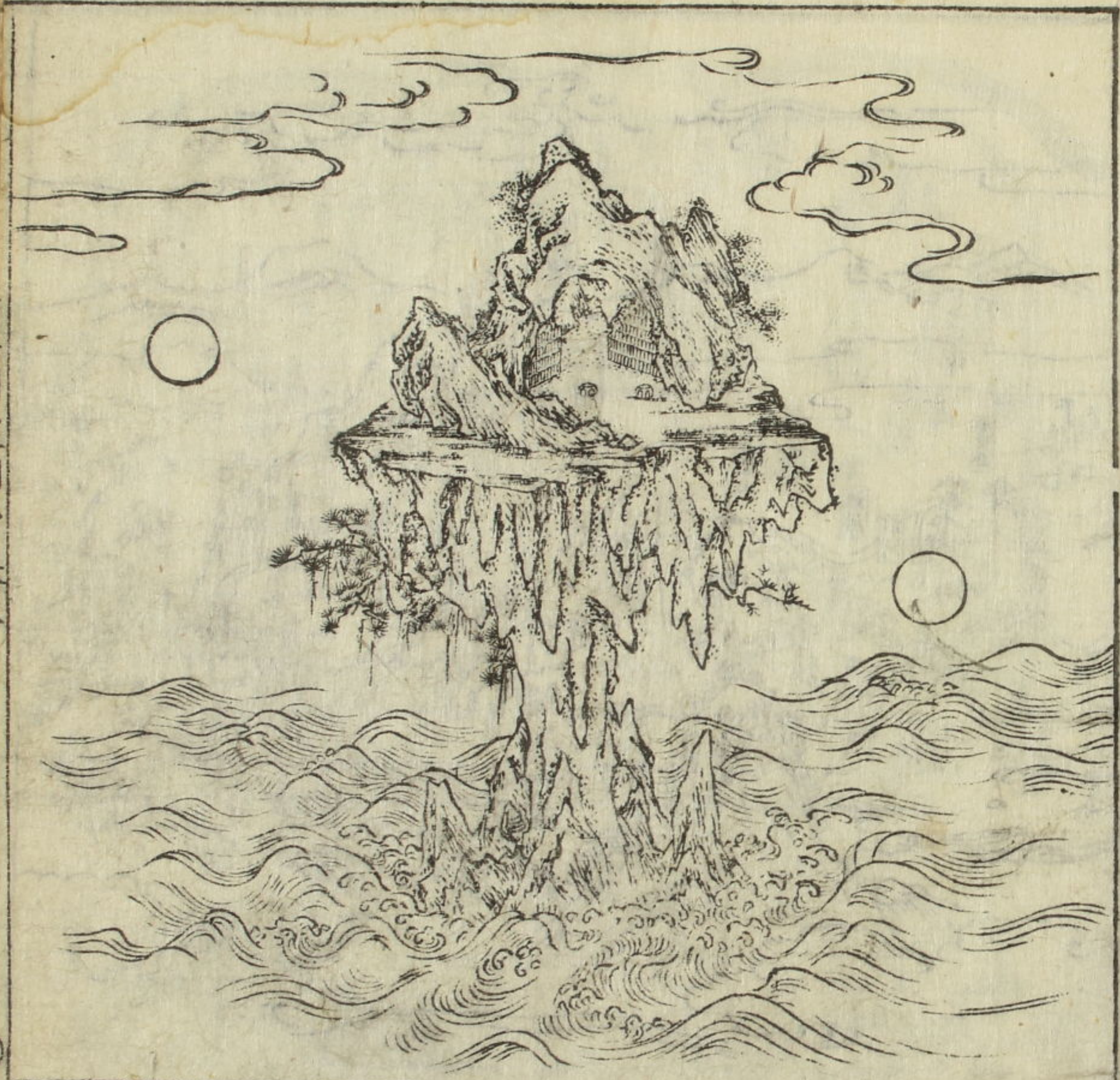
邢州府

衛州府

琉球國圖



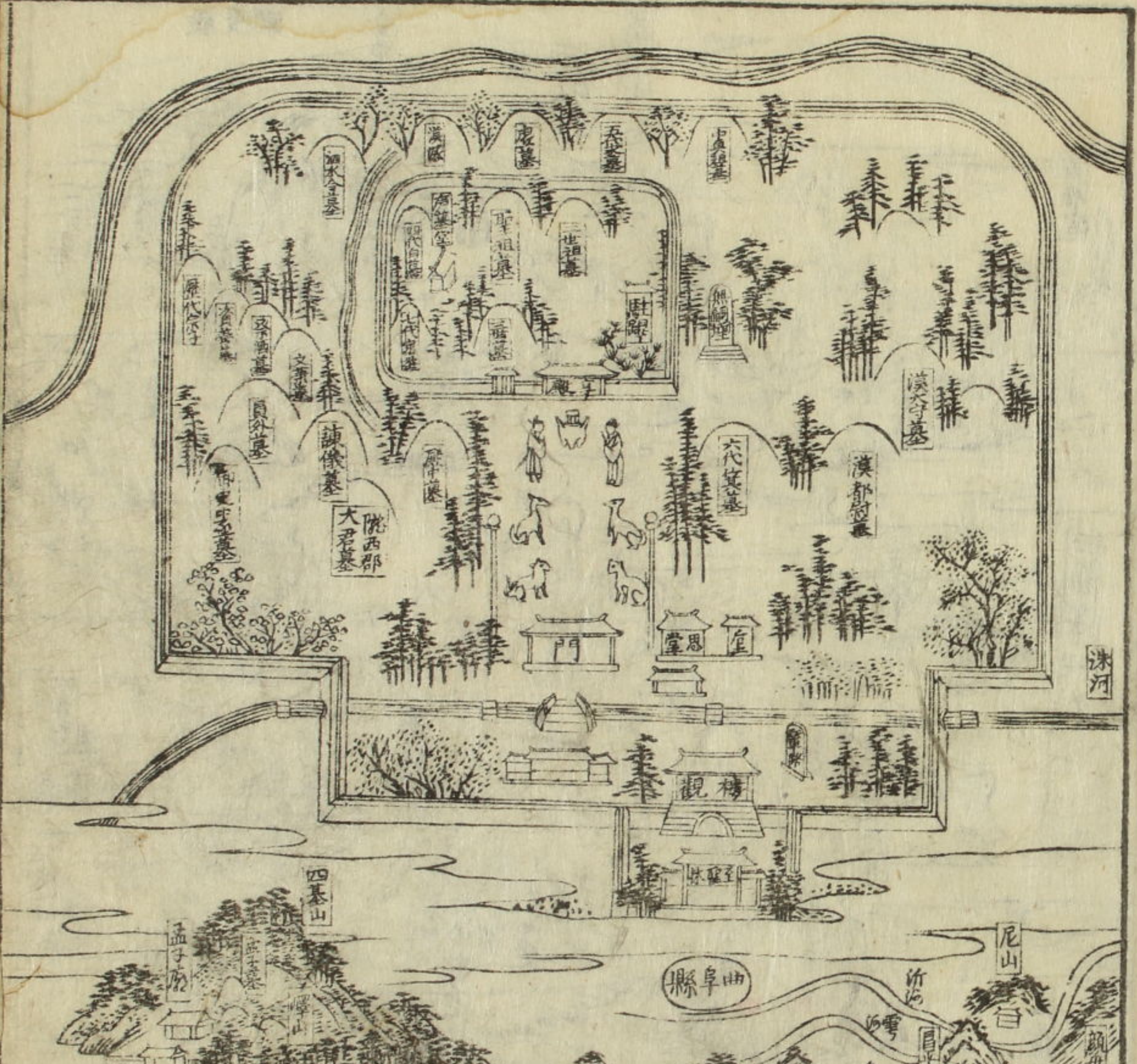
唐土訓家圖示卷之三



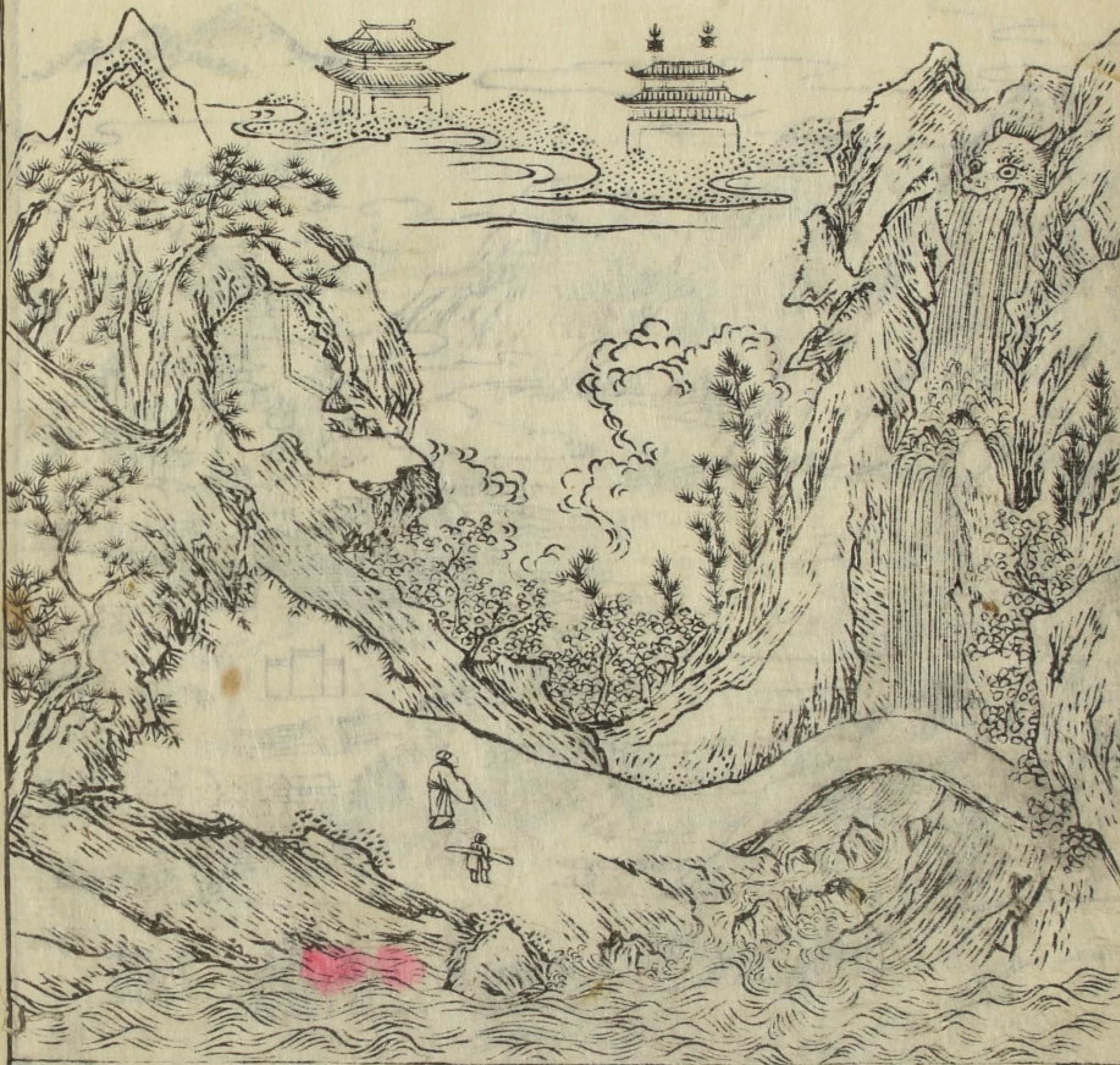
蓬萊山一名ハ雲
 萊東海の中
 あり高さ二千里
 地の方三千里上
 に金臺玉闕
 此は神仙の都
 上帝遊息乃化
 海水正流して
 風多起波浪
 多夫人島の性
 来りては唯
 飛仙同く到
 者あり是日島王
 水と浴て藍車
 二のり弱水と度
 て此山より
 とい(李)



孔林 尼山 山東
省の濟南府に在り
秋の魯國也 兗州
府の曲阜縣六十八
里に尼山あり 母顏
氏の嫡母の山也 尼
山の東に顏母山あり
西に昌平山あり 沂水
の泗水乃ち此の泗
河に聖林の後なる
沂河ハ縣門の外より
入り先聖墓を
聖林の中央より
墓前に碑石を
家塾而畝の中より
荆棘又ハ荆あり
祭と生きたる樹品
ありこれの



孔子の廟の
と持して種
りてりらる
墓のなる大
三人の石壇
その石各七
の一室あり
子貢の墓の
墓のあり上
三間あり殿
伸二のあり
と平石殿石
華表二の殿
門三間あり
の亭あり
るあり路あり
あり觀橋あり
橋の南に林あり
宜聖林あり



玉泉山 山頂は
金行宮 芙蓉殿あり
山畔に三の石洞あり
石屋の上に玉泉の三
子と別りふたの水
瀧あり 藤十藤 藤浦
芙蓉の池あり 水禽
遊びありすれり
西湖に玉泉のふの系
小石と別りしを乃
のりり水と別れを
その鳴く 佩玉の如く
まゝの系條の如く
のりり味もあはれ
下八度と三丈しりの
池あり 石橋あり
まゝの系條の水流て
西湖に入らば 景師八
景のそのいづれに玉
泉岳と云ふ



蜀棧道 せん蜀
入るは 漢より 渭水と
なる 漢國より 渭水の
のりり 棧道あり 渭水の
大故園あり 渭水の
入る水入る北の漢入る
りり 虎豹多し 虎豹
と 唯 城壁あり これを
まゝの系條の如く 処
架りて 棧道あり 白
質難し 質難し
同屋と云ふ 棧道あり
すり 又 風 嶺の如く
風 震 靡 靡 靡 靡
まゝの系條の如く あり
路 嶺 巖 あり 一人の
空 あり 此 あり 茶 棧
といふ 寺 あり 石 あり 棧
中 あり 一の 系 あり
水 激 湍 あり 石 盤 あり
報 難 あり あり



唐土山景圖卷二

三柳 吳の
 淞江のちりし三所
 公府城の西南三千
 六里あり大史公
 云柳の言へ
 わりし柳の言へ
 春温夏涼
 上中下わが故
 三柳といふ浦
 大盈浦黄橋門
 斜塘石湖秀州
 塔をいふ所
 地多し

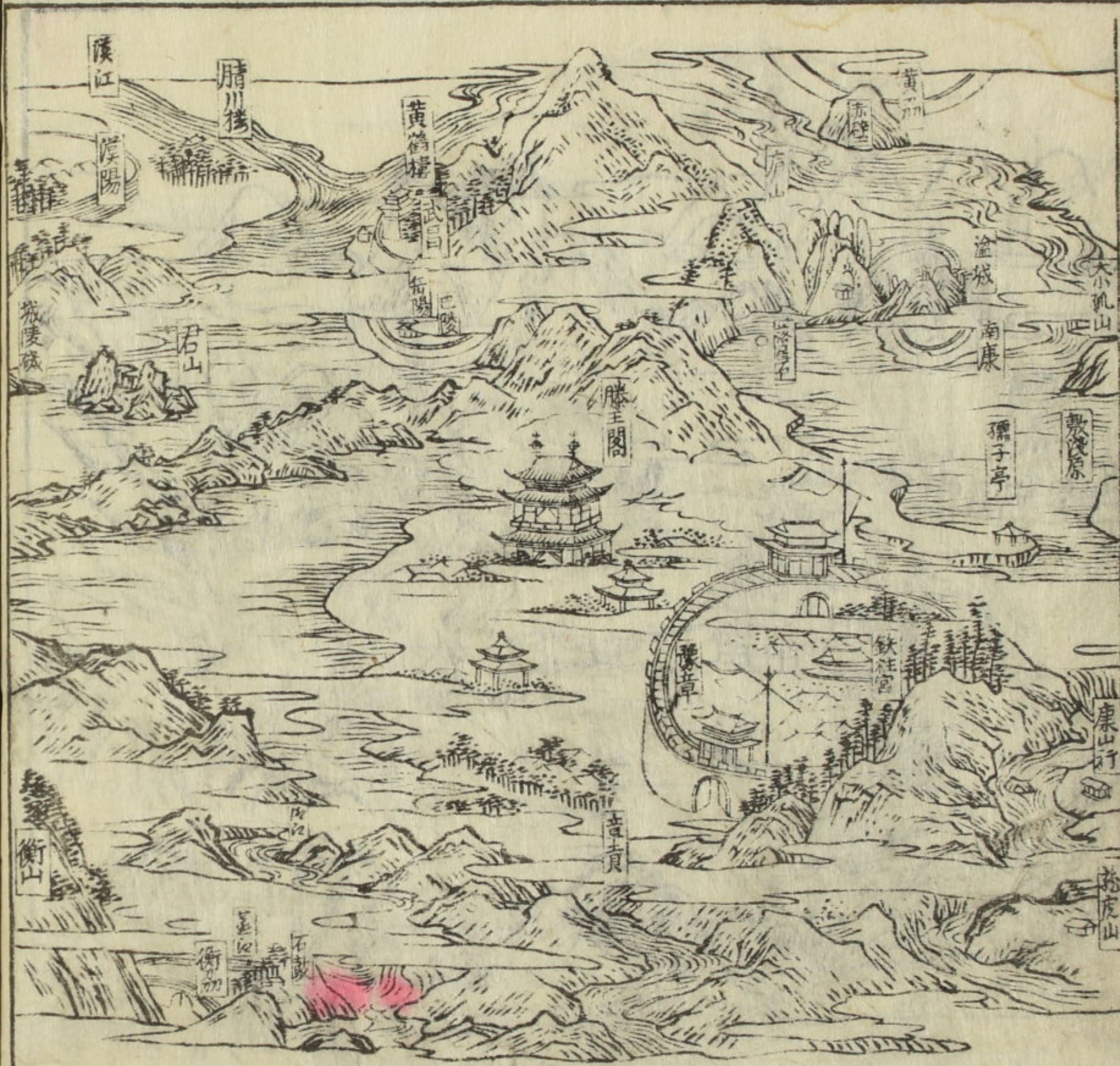
洞庭君山 岳州府
 城の北二十里あり
 又湘山と名づく狀ハ
 十二傑髻の如し
 昔堯の女湘君殆
 此に居たり上は
 楚興寺軒轅臺
 柳毅井傳書日
 亭也飛昇亭響
 山酒香山あり道
 書は卷十一の編
 地と云
 洞庭湖ハ雲夢
 湖青草湖と云
 つりて石山と
 洞庭山といふ
 京山といふ述



赤壁山 武昌
府城の東南九十里
あり宋の元豊五
年乃秋七月十六
日蘇東坡揚世
昌といふ者と二人
舟よりいひあ
せり酒をのみて
このくむ世昌
付洞簫とよこ
そのひびく
蔡子といふり曹
操といふ人
のうへとて
つみし賦をつま
そ文と前赤壁
の賦といふ

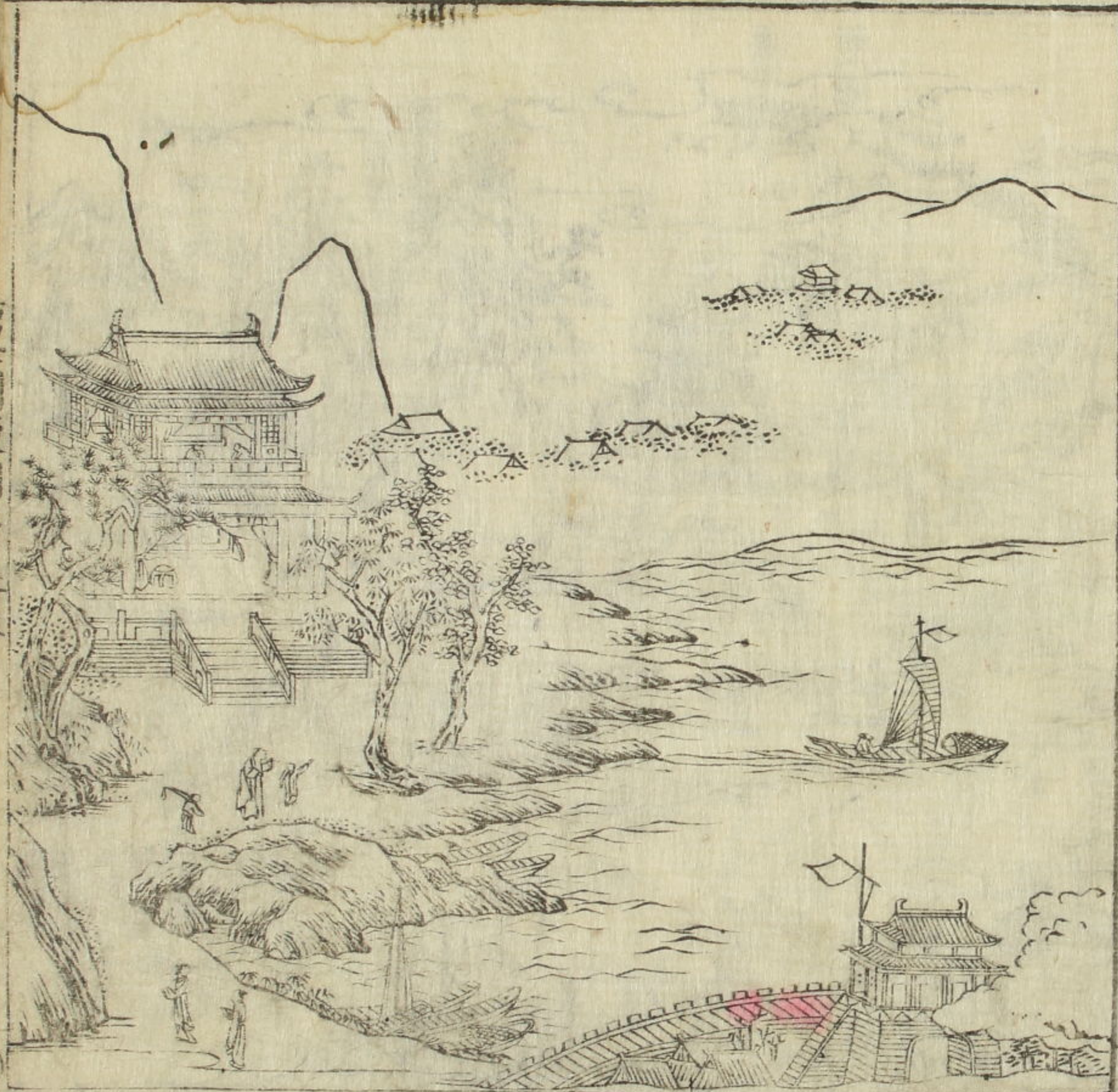


九鯉湖 興化府
仙遊縣あり九仙
宮山聳て一峰を
なれ石上は飛泉
ありそ泉の味草
一漢の時何氏
といふ者兄弟九人
あり此泉と飲
しつて仙人といひ
おのく輕・氣
して上界に故
俗此と名敷といふ
山と何嶺湖と仙
湖水と仙水縣と
仙遊といふ何氏
仙の故といふ
九仙宮といふ
験多しといふ



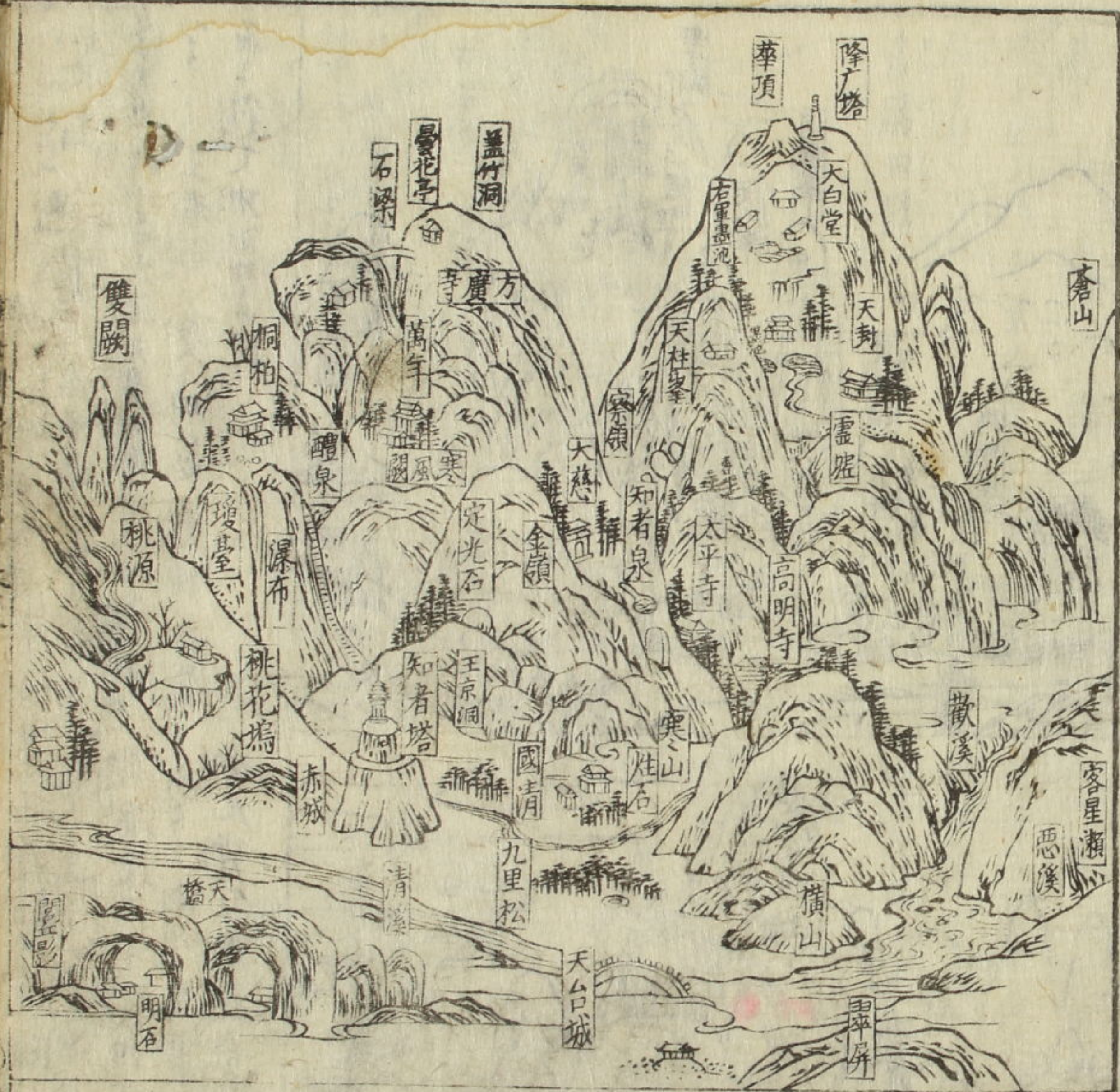
滕王閣 隆興

府府城の角章
江門城より西
り唐の高祖の
子元嬰の孫の
督とて内閣を
建らるる滕王
封とらるる故小
び右あり又二亭
あり南と塵はと
北と抱秀といふ
後子固伯嶼都督
となりて此閣を
修復とて其の序
と王勃十三歳と
あり右文に今此
園ハ文よりして潤
色とていふ



岳陽樓 岳州府

岳陽の陽より
故岳陽といふ樓
郡治のありて
西面洞庭をたそ
君山なりけり樓乃
創始されと云と
あり唐の開元年
中中書令張説出
て此郡を治め
て日一才と書
して治とていふ
ありて楼の名お
らるる後唐の隆
宗敬の記に
范希文の記に
と書さるる跡と
首は蒙しとて世
に四絶と稱は



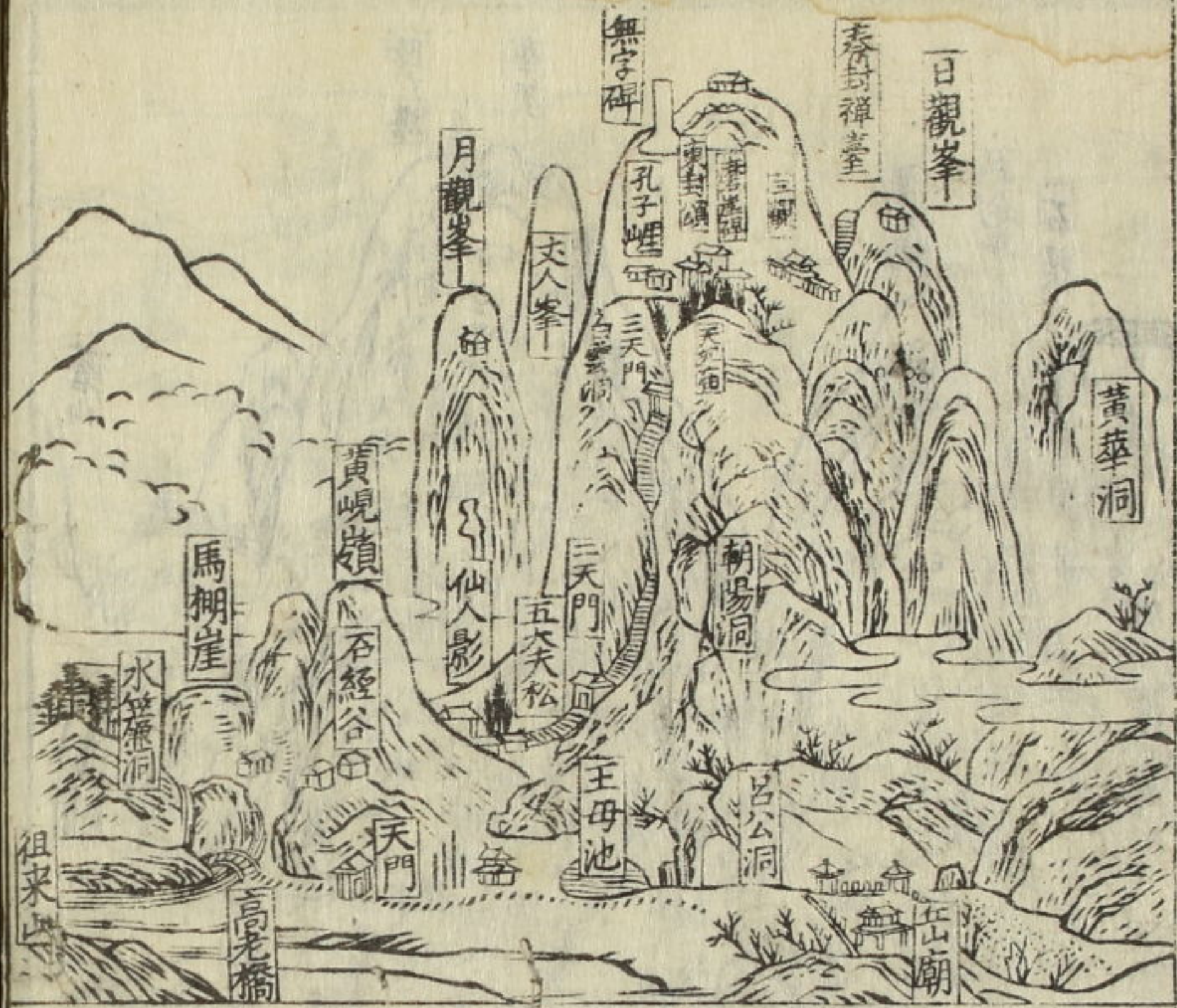
天台山 天台
 山ハ天台縣の西一
 百二十里天台山下
 八重なりはれとて
 高さ一万八千丈周
 廻八百里高大の故
 嶽と稱はれ故台
 寺院若干あり
 その外石橋あり
 半天より雷を
 布ハ深て雷を
 乃類多くよと
 く記



黃鶴樓 武昌
 府城西より
 費登仙黃鶴
 鷺して此は
 故子遂は
 其構は
 上ハ河漢より下
 江流のせじ岳陽
 樓といはれ一
 のれ九はと
 昔人已乘黃鶴去
 此地空餘黃鶴樓
 黃鶴一去不復返
 白雲千載空悠悠
 晴川歷歷漢陽樹
 春洲萋萋鴨鵝洲
 日暮鄉關何處是
 煙波江上使人愁

泰山 山東

山東濟南府泰安州あり五嶽の東也一名天孫天帝の孫といふか之召魂とつゝ主者命ヲ受つ時ハ必封禪に皆石ヲ刻て功を記す



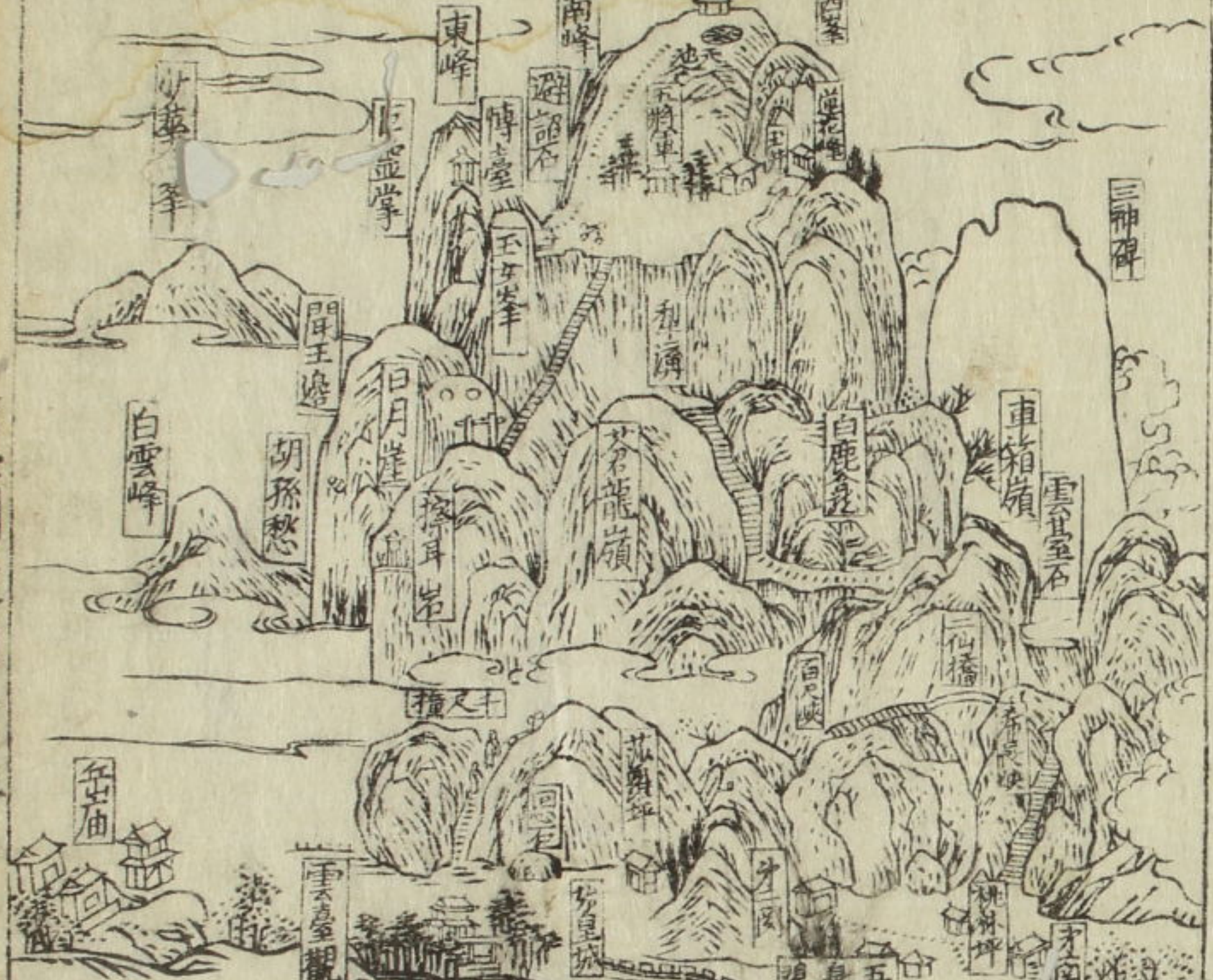
衡山 湖南

荆州の山鎮五岳の南也周旋數百里高四千一十丈東南ハ湘江の源也湘川より長沙より七百里九向九背之禹王登之これと云ふ



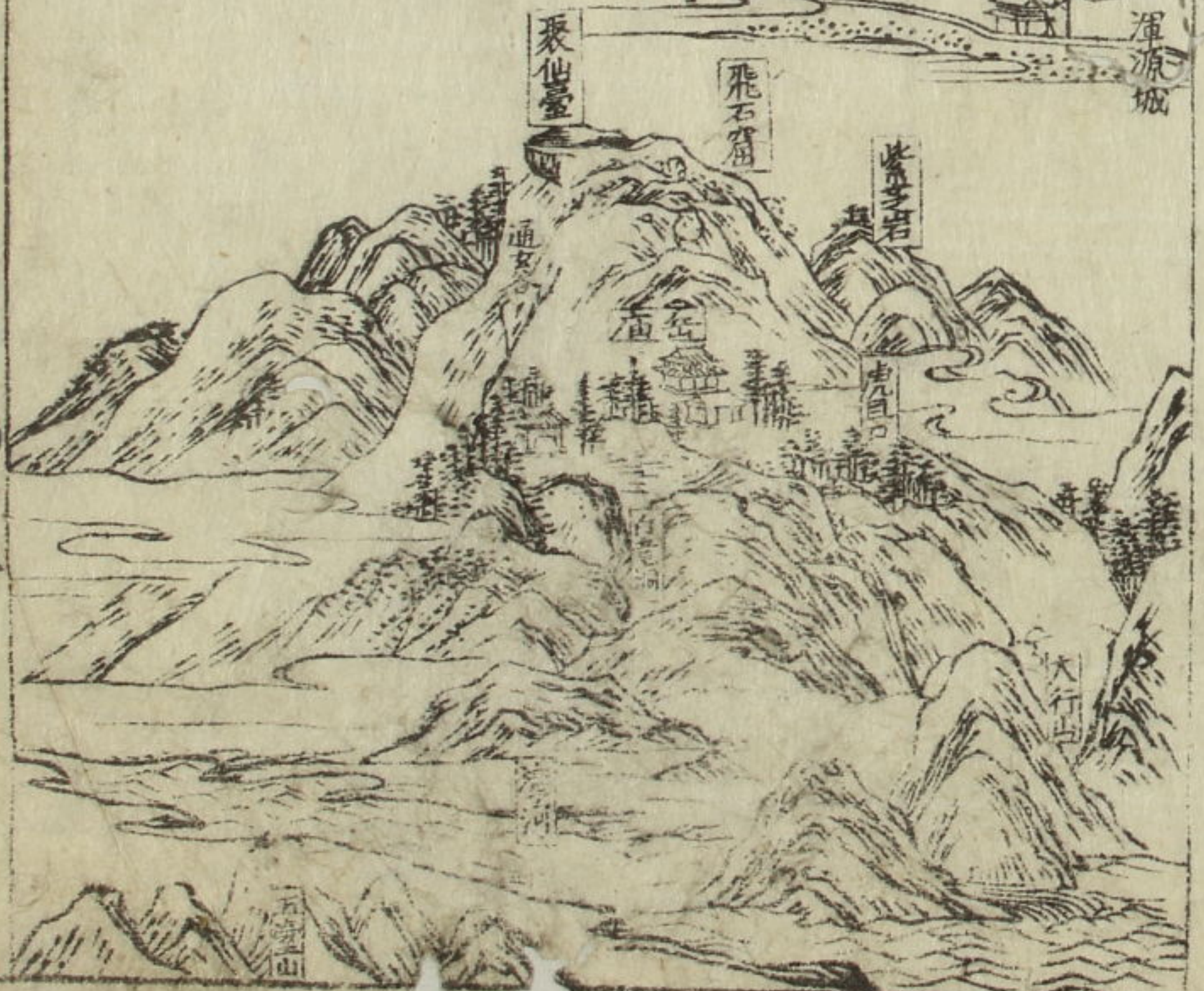
華山 山西

豫州の山鎮五岳の西あり頂ハ池あり千葉の蓮と生れぬと服すれし神化すく華山といふその名勝旧蹟もくく記す

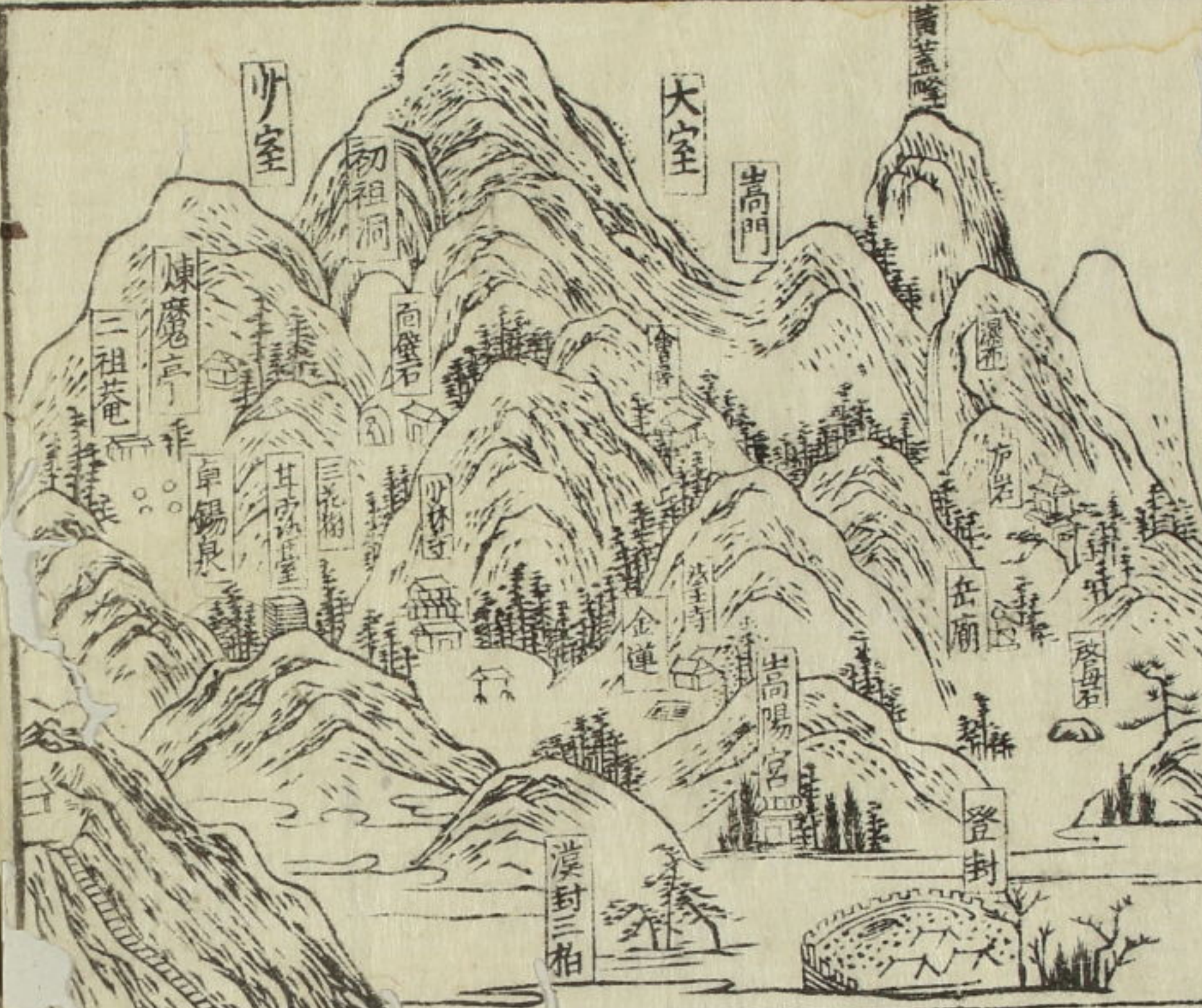


恒山 北

山西大同府五岳の北あり常ニ常山の名も三子九百丈七尺周廻三千里大玄の泉神州十九種ありと後してせと度へ



高山 中 河南府登封縣あり中岳
 名あり 東と大室と一と西とが
 室とありと十七里ありと総名あり
 二ふた石ありありなり



雪堂 魏子瞻元豐三年二月
 美州に讞されち獲馬正卿より蘇軾と
 與らりて雪中に造作して之を
 故に四壁に雪と畫く雪堂と名づく



羅浮山 増城博羅二系あり
 遊よ海上のそびるる三千六百丈峰巒
 四百三十二寺栴白水石巖洞池のつら
 しとくあり



鹿門山 襄陽城外あり
 世に氷裏抱て真上隱士の居あり
 龐徳公あり唐の孟浩然
 鹿門歌あり



我眉山

嘉定州我眉縣あり

我眉三山大我中我小我大我
其高日賢大士示現の所なり



養龍坑

長官司兩山の間にあり

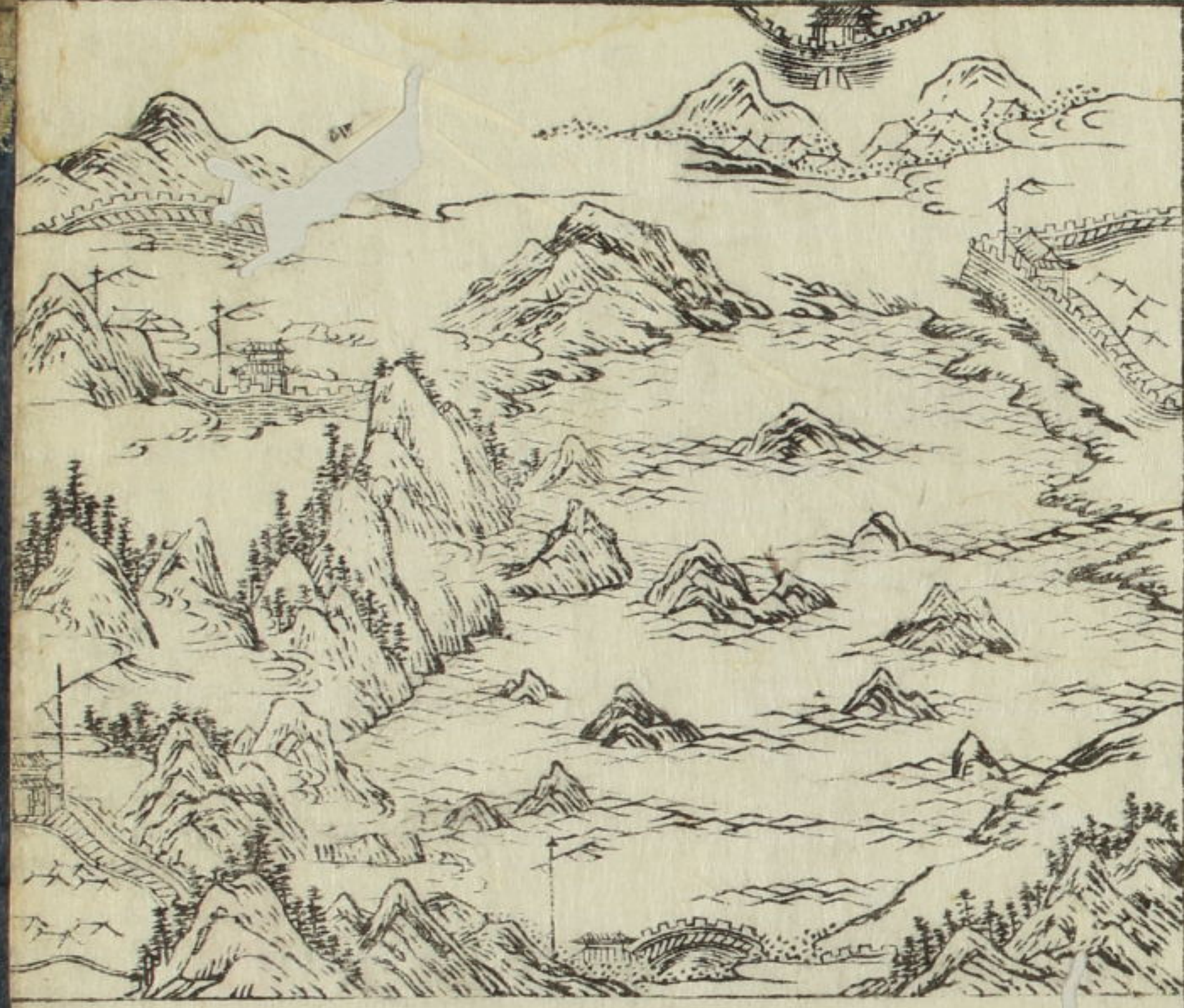
乃以養龍坑... 長官司兩山の間にあり



五湖

吳郡の五湖あり

三萬六千頃中に七拾二ありて三湖と
湖と名づくす大湖といへり



大便嶺

南安府城の北五里

山々く嶺へり初ハ嶺の路峻阻ら
新路と名づく嶺上ハ梅多



石頭城

吳人石頭上據て城を築き故の諸葛亮石頭虎踞といふ是なり石頭西嶺の下大江に臨みり



桃源洞

常德府桃源縣桃源山桃源洞あり一名秦人洞洞の北に桃花溪あり晋の太元年中武陵の人秦と避る人あり



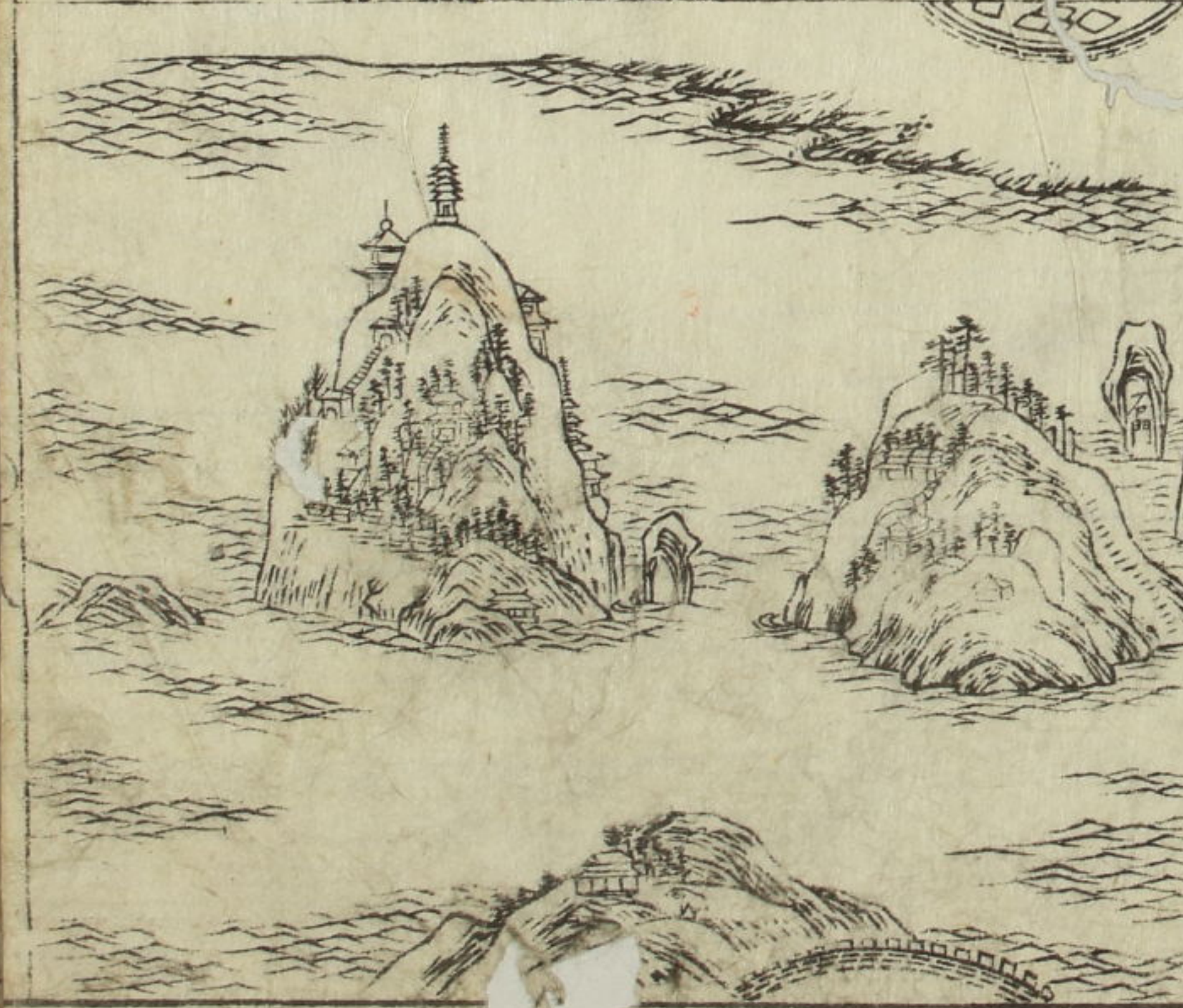
爛柯山

一名石室山石橋あり道書に此山と名を置て其八の洞天といふ王質此山に入て童子乃奕とて斧の柯乃爛るなり

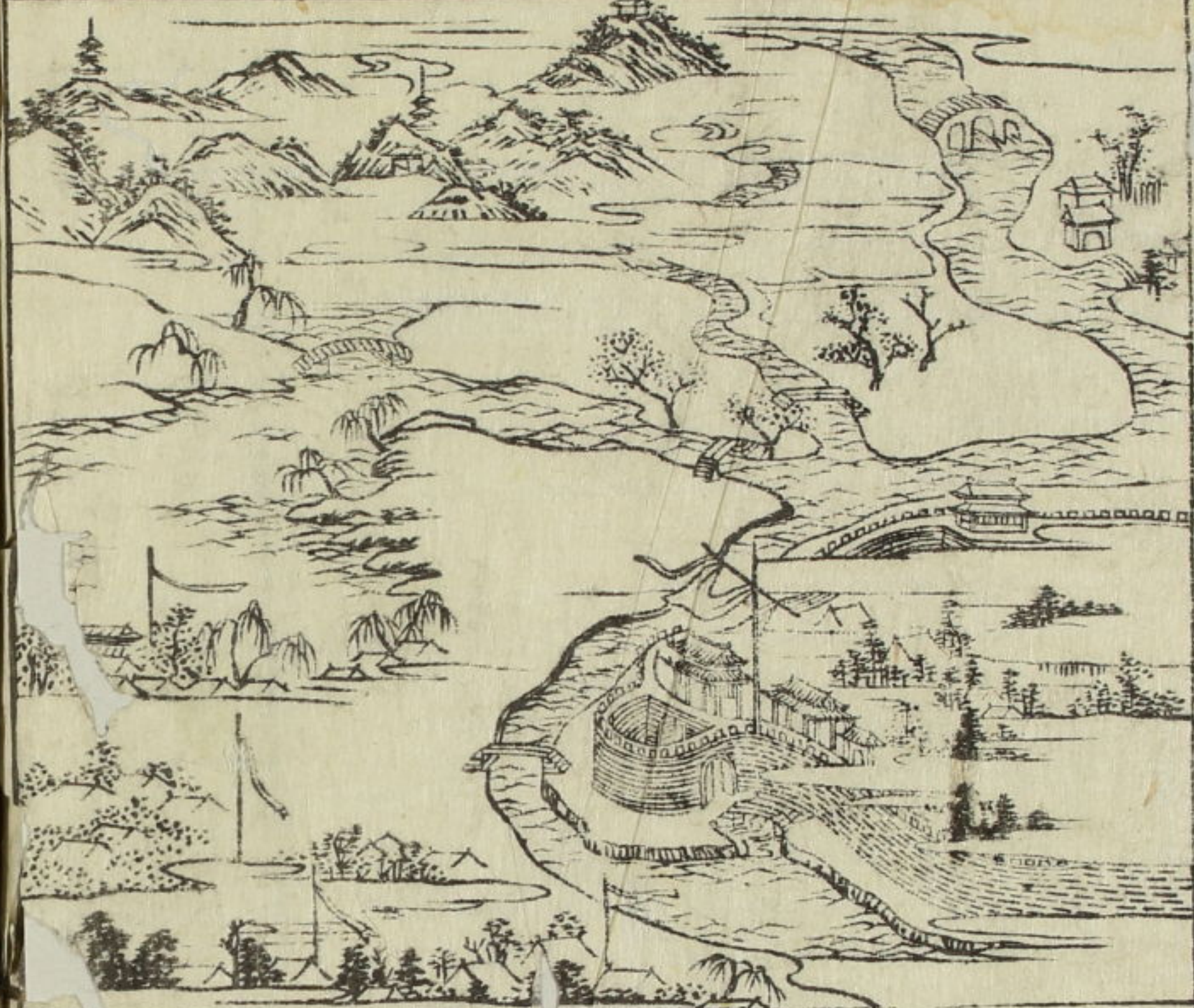


京口三山

北固山、京口城の北に下長江のうむ金山、揚子江の心ありて北の山と名を置て三の山と名を置て



雲間九峯 所謂雲間ハ山ノ背の
陸重ニ云間陸士龍の語あり
里ノ九峯ハ秀々峯九ノ
わけ



首陽山 蒲州の南ニあり伯夷叔齊
が死ニ赴キ祠のありニ柏樹あり根ハ
とも上ニ交テ足ヲお傍ニ如クニ
つらつらあり処ニ祠ありの白鹿の
馴れありニ鹿と合ハ兼鹿苑との
む故なり



岐山 漳州府城の北ニあり
あり鶴鳴山と聯シり岐山三峯秀々
龍江の上ニ漳州あり十里あり
五代の附僧楚熙あり



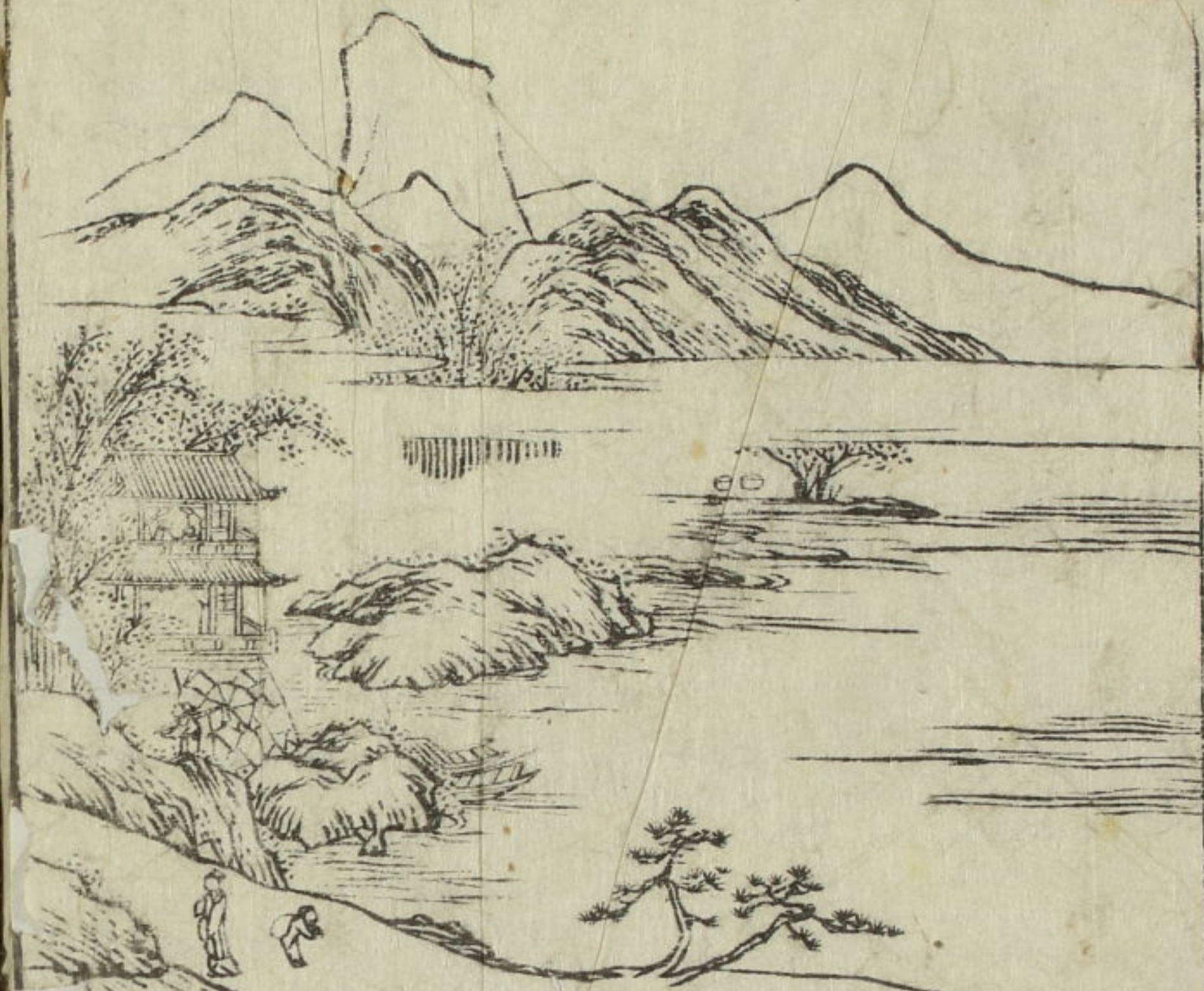
廬山 豫章郡の南ニあり
仙王の彭蠡と距ハハ漢と出テ
楚の豫章の郡と痛ハ崇峰峻
嶺飛泉絶壑良田の外あり



竹樓

黃州府之竹樓

魚鳥の適なる樓中乃出風帆のそら
王元之の記云云



九疑山

永州府寧遠縣南六十

里ありその山九の峯參差おかし
い水の流れありて海入る



雁宕

樂清縣之雁宕

雁宕の山は雁の形に似たり
其の石の奇麗なり



蘭亭

浙東路紹興府會稽

東晋の穆帝永和九年
王羲之の四聖人
相會于此地
崇山峻嶺茂林脩竹
清流あり今亭と名する

